

働き方に、  
選択肢を

Lenovo Powered by  
Hybrid Work  
Solutions Intel vPro®

Lenovo

お問い合わせ

レノボ・ジャパン合同会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX

<https://techtoday.lenovo.com/jp/ja/solutions>

Lenovo ハイブリッドワーク・ソリューション お問い合わせ窓口  
lhws@lenovo.com

© Lenovo 2022 無断複写・転載を禁ず。

- ・本ガイドで使用されている製品の写真は、出荷時のものと一部異なる場合があります。
- ・また、Lenovoは製品の提供内容および仕様を予告なしにいつでも変更する権利を留保します。
- ・表示画面および印刷帳票の出力例のうち、特に断り書きのない出力例のデータ部分はすべて架空のものです。
- ・Lenovoは、すべての情報の正確性を期すためにあらゆる努力を払いますが、編集、画像、または誤植等の誤りについて責任を負いません。
- ・宣伝される情報は、契約上に影響はございません。
- ・LenovoおよびLenovoのロゴは、Lenovoの商標または登録商標です。その他の会社名、製品名およびサービス名は、他社の商標またはサービスマークである場合があります。

Smarter  
technology  
for all

Lenovo

# Lenovo Hybrid Work Solutions

Lenovo ハイブリッドワーク・ソリューション



あらゆるビジネスニーズに応える  
Intel® vPro® プラットフォーム

# ニューノーマル時代に不可欠な ハイブリッドワーク対応を支援

多くの日本企業がニューノーマル時代に適した働き方を模索する中、多様な働き方が併存する「ハイブリッドワーク」の時代が訪れようとしています。そうした変化への対応を進めるお客様を支援するため、レノボはPCや周辺機器、サーバーなどのハードウェアの提供から、クラウドソフトウェアやサポート、サービスまで総合的に提案しています。企業とそこで働く人々が生き生きと活躍できる環境づくりを、ソリューションパートナーとしてサポートします。

2020年春からの環境変化により、多くの企業は緊急対応として在宅勤務などのテレワークを急速に導入することになりました。外的要因がテレワークを推進したかたちですが、日本企業の課題であった、「柔軟な働き方」の定着には大きな効果がありました。今後はこうした柔軟な働き方の「持続可能性」に注目が集まることになるでしょう。

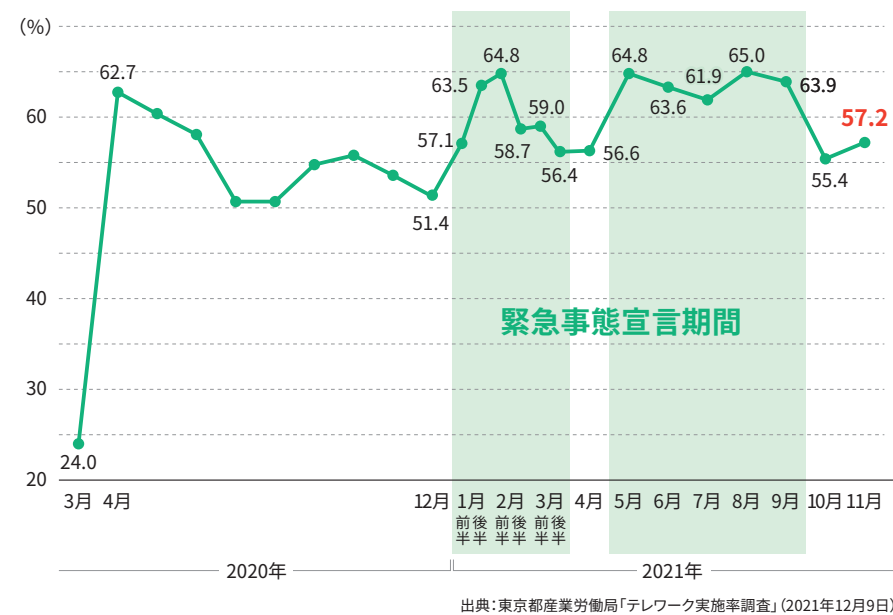
## コロナ後のテレワーク 大企業中心に継続の傾向

東京都が発表した2021年11月のテレワーク実施率調査<sup>(\*)</sup>では、従業員30人以上の都内企業のテレワーク実

施率は57.2%でした。9月の調査結果だった63.9%からは下がったものの、10月の調査よりも漸増した結果です。緊急事態宣言の解除、感染確認者の減少などで、働き方が旧来の出社中心に戻る傾向が見える中でも、半数以上の企業がテレワークを維持しています。同じ11月調査では、規模別のテレワーク実施率の結果も示されています。300人以上の企業に限ると86.7%と非常に高い数字になっています。100～299人の企業でも62.1%が実施しています。一方で30～99人の企業では46.30%と実施率が下がり、規模による差異が浮き彫りになっています。

図1 東京都テレワーク実施率調査

東京都の調査では、2021年11月時点で57.2%の企業がテレワークを実施している



コロナ収束後の働き方についてレノボが2021年4月に行った、321社を対象にした調査<sup>(\*)</sup>では、「完全な在宅勤務」が11%、「ほぼ在宅勤務」が31%、そして「ハイブリッドワーク」が42%と多数を占めました。

## 働き方を選ぶ 「ハイブリッドワーク」時代へ

ハイブリッドワークとは聞き慣れない言葉かもしれませんが、「複数の種類の働き方が同一企業内で併存する働き方」のこと。在宅勤務やコワーキングスペース、従来のオフィスなど、最もパフォーマンスが発揮できる場所や働き方を併存させ、業務内容に合わせて従業員が働く場所を選べるようにする働き方です。

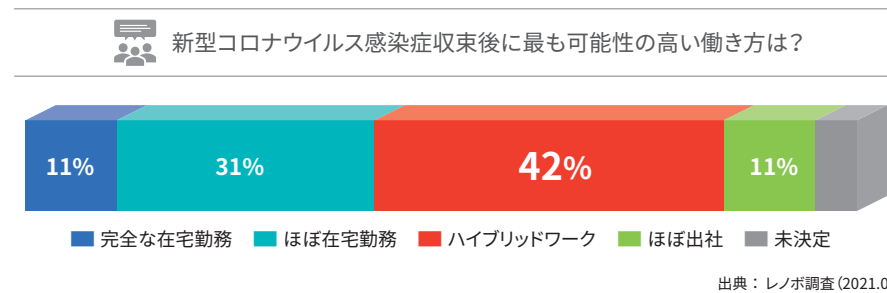
レノボの調査では、コロナ前の状態に近い「ほぼ出社」と回答した企業は11%にとどまりました。31%のほぼ在宅勤務との回答の中には、「週4日在宅、週1日はオフィス」といった、ハイブリッドワークに分類できるスタイルを想定しているケースもあるでしょう。今後の働き方の潮流は、ハイブリッドワークに向かっているのです。

## 多様な働き方を 企業が支える必要性

ハイブリッドワークについても、も

図2 働き方の変化は「不可逆」なものに

新型コロナ感染収束後も、ハイブリッドワークが主流になると予測する企業が半数を超える



う少し具体的に考えてみましょう。例えば、Aさんはほぼ在宅勤務で、週に1回程度オフィスまたはコワーキングスペースで仕事をします。一方のBさんはほぼオフィス勤務ですが、週に1日程度は在宅で仕事をします。Cさんは別のオフィスと在宅が半々のワークスタイルといった具合です。

1つの企業の中、同じ部門であっても業務特性に合わせて個々人が最適な働き方をするのがハイブリッドワークです。こうした働き方が主流になる時代が訪れようとしています。働く場所も多様になります。オフィス、自宅、顧客先、コワーキングスペースなどを行き来し、オンラインで常にチームとつながりながら業務に向き合います。ハイブリッドワークは、生産性やワーク

ライフバランス改善の効果をもたらすだけでなく、場所を問わずに業務を継続できる環境を整えることにより事業継続性も高めるでしょう。

## ハイブリッドワークの実現を支える レノボのソリューション

では、ハイブリッドワークを実現するために、企業にはどのような対応や変化が求められるのでしょうか。レノボは、ハイブリッドワーク化に向けた変革のポイントとして、「環境」「制度」「文化」の3つの要素を挙げています。

環境とは、PCやコラボレーションツールなどからなる働くインフラの整備のこと。社内外を問わず安全で柔軟に働けるように、従来型のオフィスとは異なる視点でインフラ整備をする必

要があります。そうした環境を整えた上で、働き方のルールを定める制度や、ハイブリッドワークの実現のための企業文化の変革も求められます。

このようなハイブリッドワーク実現のためのポイントを含めたお客様の持つニーズや課題の解消に、レノボは一緒に取り組んでいきます。その中で生まれたのが「Lenovo ハイブリッドワーク・ソリューション」です。これは、デバイスとサービスを組み合わせ、ハイブリッドワークへの変革をIT環境整備の観点から総合的に支援する取り組みです。

そのカギとなるのが、「生産性を高める」「コラボレーションを加速する」「運用管理の柔軟性を上げる」ことの3つです。

生産性を高めるには、働き方と業務の目的に合わせたIT環境の選択が重要になります。また、どのような環境下でもスピード感を落とさないクラウドとの親和性の高いOSやアプリケーションの選択も必須でしょう。

コラボレーションを加速するには、分散していてもチームのコミュニケーションを円滑にするためのオフィス、リモート環境双方の整備と、つながりを可視化するツールが貢献します。

また、運用管理の柔軟性を上げることが、ハイブリッドワーク実現の要になります。組織に見合ったセキュアな環境の構築と、クラウドを用いた柔軟なIT運用管理がIT担当者の負担軽減に寄与します。

レノボはニューノーマル時代にふさわしい働き方をお客様とともに切りひらくパートナーとして、ハイブリッドワークの実現と定着を支援していきます。

\*1：東京都産業労働局「テレワーク実施率調査」(2021年12月9日)  
\*2：レノボ調査 (2021年4月)

図3 ハイブリッドワーク・ソリューション概要

「生産性を高める」「コラボレーションを加速する」「運用管理の柔軟性を上げる」ことを支援





# Hybrid Work Check List

## ハイブリッドワークチェックリスト

在宅勤務だけでもない、オフィス勤務だけでもない、テレワークとオフィス出社をフレキシブルに組み合わせた「ハイブリッドワーク」。その環境の整備に求められる要素をチェックリストにまとめました。ハイブリッドワークの実現に向けて取り組む前に、まずは自社の環境や設備の現状と課題を把握して、組織の実情や戦略に合わせたハイブリッドワークの環境を整備しましょう。

### 各設問で最も当てはまるものに○をつける

1：当てはまらない 2：やや当てはまらない 3：どちらとも言えない 4：やや当てはまる 5：当てはまる

|           |    |                                                                           |   |   |   |   |   |
|-----------|----|---------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|
| オフィスレイアウト | 1  | 新型コロナウイルス感染症収束後の想定出勤率について、経営レベルで合意がなされている                                 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 2  | 従業員が業務内容に合わせて柔軟にワークスペースを選択可能な「アクティビティ・ベースド・ワーキング（ABW）」の観点でオフィスがレイアウトされている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 3  | 単純フリーアドレスではなく、高集中、コワーキング、リラックスなど、用途に応じて勤務スペースを従業員が選択できるようになっている           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 4  | ソーシャルディスタンスに配慮した空間づくりがされている                                               | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 5  | オフィス内の各エリアの稼働率を定点確認する仕組みが、アナログ / デジタル問わず構築されている                           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| テクノロジー    | 6  | 14インチ以下かつ1.5kg以下のノートPCをプライバシーフィルターとともにハイブリッドワークの対象となる従業員に支給している           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 7  | 外付けモニターやヘッドセットなど、テレワークに必要な周辺機器を企業や組織として支給している                             | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 8  | 従業員が自由に利用可能なオンライン会議ソリューションが導入されている                                        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 9  | 場所を問わずメールや社内情報にアクセス可能なインフラが整備されている                                        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 10 | 社内ネットワークの外で勤務することを想定したセキュリティ担保の仕組みが導入されている                                | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 会議室       | 11 | 会議室の予約・空室確認がPCやスマートフォンから行えるようになっている                                       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 12 | 会議室にモニター / プロジェクターとカメラ、スピーカーフォンが設置されている                                   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 13 | 直観的に会議に参加できるオンライン会議専用システムが会議室に導入されている                                     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 14 | 会議室の稼働率が40%以上、70%以下の適正水準に抑えられている                                          | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 15 | オフィス内でのコラボレーションを促進するオープンなコラボレーションスペースが存在する                                | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| サードプレイス   | 16 | 従業員が働く場所を能動的に選べる制度が整えられている                                                | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 17 | サテライトオフィスの設置、またはコワーキングスペースを契約している                                         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 18 | 従業員の在住エリアと照らし合わせて十分にエリアがカバーされている                                          | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 19 | 従業員が利用可能なサードプレイスの中に、オンライン会議の利用が可能な場所が存在する                                 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|           | 20 | 5G / LTE 内蔵PCやモバイルルーターなど、場所を問わずにテレワーク可能なネットワーク環境が支給されている                  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 合計        |    |                                                                           | 点 |   |   |   |   |

### 結果を採点して課題を把握する

- 100点～91点 ..... 高度に整備できている
- 90点～71点 ..... 十分に整備できている
- 70点～51点 ..... 整備が進みつつある
- 50点以下 ..... 準備を加速させる必要がある

## 改善策を検討する

ハイブリッドワーク環境の実現に向けた、理想と現状のギャップが見えてきたでしょうか。各カテゴリにおけるおすすめの改善策を以下にまとめました。解決のヒントにしてください。

### オフィスレイアウトのスコアが低い場合

新型コロナウイルス感染症収束後に向けて、想定出勤率やテレワークの継続有無など、自社の方針は定まっているでしょうか。オフィスの位置付けが大きく変わる中、床面積縮小を目的とした単純なフリーアドレス化ではなく、ABWと呼ばれる集中スペースからコラボレーションのためのエリアまで、さまざまなバリエーションを網羅したオフィス空間を目指しましょう。

### テクノロジーのスコアが低い場合

場所を問わず高い生産性を発揮するためには、テレワークを可能にするPC、ネットワーク環境、業務をサポートする周辺機器、コラボレーションのためのインフラなど、さまざまなIT資産・インフラが必要です。従業員体験を高めることは、DX(デジタル・トランスフォーメーション)の前段として非常に重要です。コストではなく投資として捉え、セキュリティとのバランスも考えながら整備を進めていきましょう。

### 会議室のスコアが低い場合

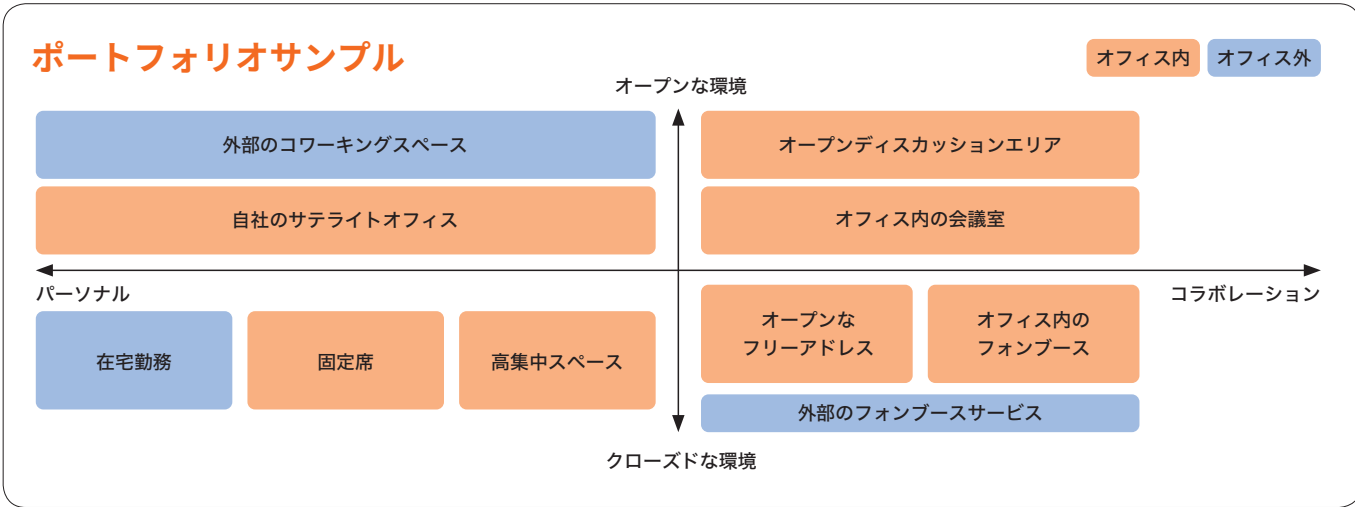
ハイブリッドワーク時代においては出席者全員が1つの会議室に集まるのではなく、常にテレワーク先と会議室をつなぐニーズが発生します。誰でも直観的に使うことができ、対面のミーティングに近い音質や映像クオリティを実現するために、オンライン会議専用システムの導入検討も含めて、会議室に導入されている設備の現状をいま一度確認してください。

### サードプレイスのスコアが低い場合

ハイブリッドワークとは、在宅勤務だけでなく、オフィスだけでもない、柔軟な働き方です。ライフステージや住居環境などに起因して、在宅勤務を行うことが難しい従業員の存在を忘れてはなりません。社内のニーズや居住エリアに合わせるかたちで、自由に使えるコワーキングスペースサービスの契約やサテライトオフィスの設置などを、オフィスの延長線上として検討してください。

## 働く場所をポートフォリオとして考える

持続可能なハイブリッドワークを実現するためには、オフィス内だけでなく、在宅勤務やサードプレイスも含めたワークプレイスの全体像を認識し、オフィス以外も働く場所として適切な投資を行うことが必要不可欠です。以下に示すポートフォリオ例を参考に自社向けにカスタマイズして網羅性を確認してください。





## 多様な働き方を実現し 組織の生産性を高めるために

持続可能なハイブリッドワークを実現するために「生産性の高まる環境づくり」は重要な項目です。従業員が能動的にワークプレイスを選択する世界において、働く場所を問わず最高の生産性を実現するための環境整備は重要な投資エリアです。レノボは多様な働き方に対応するIT環境整備の支援を通し、企業の変革に貢献します。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、社会生活から産業活動までさまざまなところに影響を与えましたが、その一つとして働き方の変化が挙げられます。これまでとは異なる環境下での勤務経験を経て、業務の目的とプロセスの見直しを図っている企業も少なくありません。

そうした中で、100%オフィス勤務に戻るのでも、かといって完全な在宅勤務でもない、さまざまな働き方や働く場所を組み合わせる効率よく仕事を「ハイブリッドワーク」が、働き方の新しい最適解として注目されています。企業が従業員に対してハイブリッドワークの多様な働き方をサポートすることで、ビジネスの生産性を高め、企業価値の向上につながられるのです。

### 適材適所で働ける 多様な労働環境を提供

「66%の従業員が在宅勤務のほうが生産性が高いと回答」。これは、レノボが2020年7月にグローバルで調査した在宅勤務に対する評価です。また、日本でも2021年4月にレノボが対象企業321社に調査を行ったところ、8割を超える企業が、新型コロナ感染収束後もテレワークを勤務形態に組み込んだワークスタイルが主流になると予測しています。

企業が従業員の生産性を高めるには、オフィス勤務だけではなく、在宅勤務をはじめとしたサードプレイスからの勤務も含めた複数の働き方を継続して提供する必要があると同時に、日

本でも働き方の潮流はハイブリッドワークに向かいつつあることがすでに見て取れます。

こうした新たな働き方の潮流で求められるのは、従業員が仕事や職場で経験する要素を示す「EX (Employee Experience)」、すなわち従業員体験の向上です。従業員が仕事そのものや仕事をする環境に対して良い体験を得られていれば、それが原動力になって企業価値や業績が向上する可能性が高まるのです。

レノボとインテルが共同で2020年に実施した調査では、「EXに対する投資利益率(ROI)は5倍にも上る」という結果が得られました。投資効果は生産性や組織の俊敏性、顧客満足度に表れ、EX向上は企業の成長に欠かせない



指標になりつつあるのです。

ハイブリッドワークのような、業務目的に応じた多様な勤務環境と働き方を従業員に提供するための投資により、組織に柔軟性が生まれ、生産性が向上します。それでは、EXを高めるためには、どのような環境を提供すればいいのでしょうか。

### 働き方と業務目的に応じた IT環境の選択

持続可能なハイブリッドワークを支援し、EXを高めるためのソリューションは、1つの製品やサービスだけで成り立つものではありません。レノボでは働き方や業務目的に応じたハードウェアの提案はもちろん、アプリケーションやサービスを含めた多様なツールを提供し、企業の変革を支援しています。

仕事をする従業員の手元には、パソコンやタブレット端末などのデバイスがあることが多いでしょう。オフィスワークに限らず、あらゆるビジネスシーンでITデバイスは欠かせないツールになっています。働き方が多様化する中で、従業員から求められるデバイ

スもこれまでとは異なり、一様なものではなくってきています。そこでレノボは「Device of Choice = それぞれの働き方に最適なデバイスを」というコンセプトの下、利用シーンや業務目的に見合ったデバイスの提案を行うべく、幅広いラインアップを提供しています。

例えば、オフィスから、自宅などをはじめとしたサードプレイスを行き来することの多い従業員に物理的に重く持ち運びに苦労するデバイスを与えることは、仕事の負荷を増加させることになりかねません。レノボでは、ハイブリッドワークを構成するあらゆる働き方に最適な業務環境を、幅広いラインアップの「ThinkPad」シリーズや各種周辺機器などのハードウェアの提供を通じて支援します。

また、従業員のデバイスが接続する先のインフラの環境整備として、ハイパーコンバージドインフラ(HCI)などのハードウェアも提供しています。それらを基盤に仮想デスクトップ環境の構築を支援するVDIの導入サポートなども含めて、安全なリモートアクセスの実現も支援します。

### 場所を問わない 業務ツールの整備

ITを活用した業務にはさまざまなアプリケーションが使われていますが、これまで多くの企業では部分最適な個別のツールを導入してきました。しかし、複数のアプリケーションを立ち上げて情報を確認しなければならなかったり、データの連携に手間が必要だったり、複雑化するITツールを活用できていない企業も少なくありません。

レノボでは、最新OSを搭載したPCに加えて、オンライン会議やチャット、ファイルの共同編集などをカバーするMicrosoft 365を提供することで、場所を問わないシームレスな業務体験を提供します。利用者の利便性に加えて、管理者もユーザーごとのバージョン管理などが容易になり、安全で最新の業務環境を構築しやすくなります。

IT管理の柔軟性を高めるこうしたソリューションも併せて活用することで、従業員のハイブリッドワークをサポートする体制を整えて、EXを高めていくことができるのです。

### 数字で見る「生産性を高める」ためのヒント

66%の従業員が在宅勤務の方が  
生産性が高いと感じている<sup>(※1)</sup>

70%の従業員が在宅勤務用に  
テクノロジー製品を購入している<sup>(※2)</sup>

企業は従業員体験に対する投資が  
5倍の利益を生み出すと回答<sup>(※3)</sup>

\*1：レノボの調査(2020年7月)  
\*2：レノボによる調査報告書「Technology and the Evolving World of Work」(2020年7月)  
\*3：Forrester 社「Invest In Employee Experience (EX), Drive Your Bottom Line Growth, Empower Your Employees With The Right Technology」(2020年10月)



## リモートでも「つながり」を維持し 組織のコラボレーションを加速する

場所や働き方が多様化するハイブリッドワーク時代における大きな課題の一つは、コラボレーションの質の確保にあります。異なる勤務環境からもビジネスにおける意思疎通はもちろん、チームワーク体験の共有は欠かせません。レノボは、コミュニケーションの質の向上を支援することで、ビジネスの新しいコラボレーションの加速をお手伝いします。

ハイブリッドワークが従業員の業務への体験(EX、従業員体験)向上に貢献する一方で、これまでオフィスに集まって仕事をしていたときと同じようにはできないこともあります。隣の席の人にちょっとした質問や確認をしたり、すれ違いながらした立ち話から有用な情報を仕入れたり、仕事ぶりの変化からトラブルの予兆を感じたり、オフィスには多くの隠れた役割が存在していました。

テレワークでは、こうした日常にある従業員同士の交流が失われがちになるというデメリットも生じます。特にコロナ禍の最中に新しく組織に加わった従業員にとっては、テレワーク環境下で新しいチームとの関係性をつくることは大きな課題です。

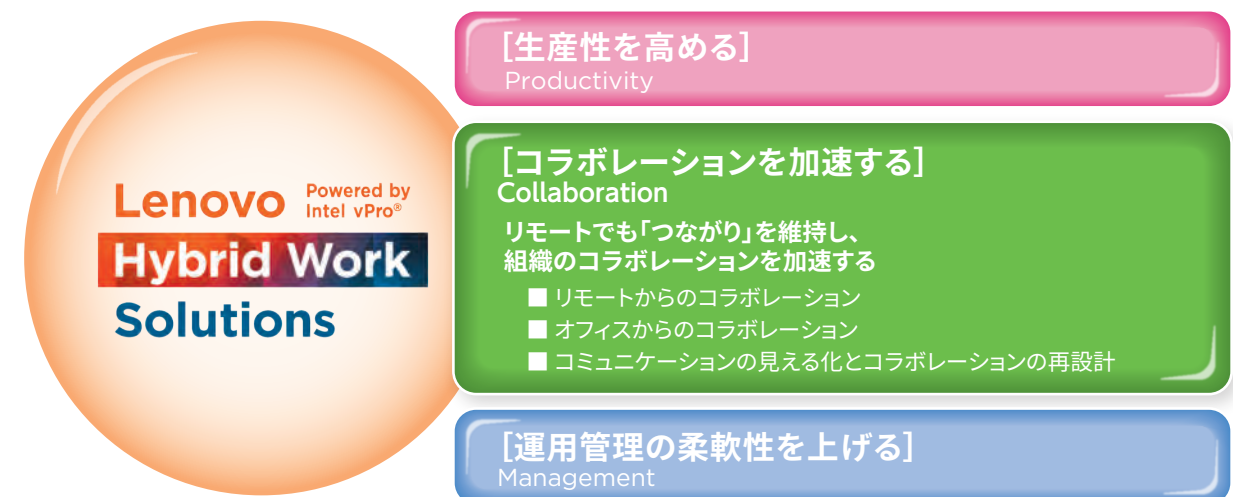
セキュリティベンダーのTwingate社の調べでは、45%のリモートワーカーが人との交流不足を感じているという結果が出ています(「WHAT EMPLOYEES MISS」、2020年10月)。また、Aetna International社が2020年11月に行った調査「Global Employee Health Study Data」によると、リモートワーカーの74%が、コロナ禍が自身のパフォーマンスに影響し、メンタル・ヘルスの問題につながっていると回答しています。

コミュニケーションやコラボレーションの不足は、日本だけでなくグローバルでも課題になっているのです。企業や組織がハイブリッドワークを実践する上で検討が必要なポイントの1つが、勤務場所の「選択肢」の確保

です。従来のオフィスでの勤務だけでなく、在宅勤務、サードプレイスでの勤務という大きく3つの勤務環境をポートフォリオとして捉え、それぞれの場所で働く上で生産性を高める環境を網羅的に検討することが企業には求められます。オフィス以外でも働くことが当たり前となるこれからの働き方において、環境面での適切な投資は企業や組織の生産性に直結する重要な投資エリアです。

### リモートな環境下からも コラボレーションの質を高める

レノボはハイブリッドワーク・ソリューションの柱の1つとして、「コラボレーションを加速する」ことを掲げています。従業員が分散して働く環境下



での点と点をつなぐコミュニケーションの質を向上させ、コラボレーションを生むIT環境構築を支援します。

日々のオンライン会議などのシーンでも、環境面での適切な投資によって必要なやり取りに集中することが可能になります。例えば、PCやヘッドセットの力を借りることで外部の雑音を低減し、通話相手にクリアに伝えることができるようになることで、勤務場所が離れていたとしても臨場感のあるコミュニケーションが可能になります。

### コラボレーションハブとしての オフィスの再検討

ハイブリッドワークが浸透していくと、オフィスは不要な場となるのでしょうか？それは違うようです。

PWC社が2021年1月に行ったグローバル調査によると、従業員は在宅勤務などのサードプレイスでの勤務を好む一方で、87%はチームメンバーとのコラボレーションや関係構築という観点から、オフィスでの勤務を重視していると回答しています。

同時に、この調査からも見られるように、オフィスは現場と外部を繋ぐコ

ラボレーションのハブへと進化する必要があります。実際にNTT社による2020年4月の調査では、44%の企業が新しいニーズに合わせてオフィスの設計を再検討していることが明らかになっています。

特に会議室は、コラボレーションスペースとしての充実が、より一層求められます。現場でのやり取りのみならず、「常に遠隔地からの参加者が存在する」ことを前提としたインフラの導入が必須となるのです。会議室を中心としてワンタップでオンライン会議に参加が可能で、接続後の映像・音声品質についても会議室での利用に最適化された専用ソリューションを導入することで、ITに対するリテラシーレベルを問わず、同じクオリティでオンライン会議に参加することができます。

### 行き交うコミュニケーションを 見える化する工夫

ハイブリッドワークになっても、仕事は一人だけで遂行できるものではありません。オフィスに出社していたころは、上司やチームなどが適切に仕事の状況を把握してサポートできました

が、インターネットを介してのコミュニケーションでは状況が把握しづらいのも事実です。

レノボでは、オンラインのコミュニケーションを見える化し、コラボレーションを再設計するための手段として、Discoveries(ディスカバリーズ)が開発した、engage.works(エンゲージワークス)、InSite(インサイト)、IntelliReport(インテリレポート)という3つのアプリケーションを提供しています。

これらは、社内の最新情報の入手や情報の一元化、コラボレーションの状況の可視化ができるツールです。異なる環境下で働く従業員同士のコラボレーションを、業務成果だけでなく取り組み方やアプローチを含めて見える化することを助けます。日々のやり取りを一層活性化することにより、従業員のコラボレーション体験の向上に寄与するだけでなく、ミドルマネジメントの管理業務もサポートします。

信頼できるビジネスパートナーのアプリケーションを通して、日本のビジネスの新しいコラボレーションをお手伝いします。

### 数字で見る「コラボレーションを加速する」ためのヒント

**66%**がコラボレーションツールによって生産性が高まると回答している(\*4)

**87%**の従業員は「関係構築」という観点からオフィスでの勤務を重視している(\*5)

**44%**の企業が新しいニーズに合わせてオフィスの設計を再検討している(\*6)

\*4：レノボ「The Future of Work and Digital Transformation」(2021年2月)

\*5：PWC社「US REMOTE WORK SURVEY」(2021年1月)

\*6：NTT社「2020 Intelligent Workplace Report: Shaping Employee Experiences for a World Transformed」(2020年4月)



## ハイブリッドワーク実現の要はセキュリティと管理の柔軟性の両立

働き方の多様化に合わせて、勤務場所を問わないことによるセキュリティ対策の重要性は一層高まっています。またビジネスに不可欠なデバイスとインフラの管理は、リモートワークの広がりにより複雑化しています。レノボは柔軟性の高いサービス契約の提供に加えて、セキュリティからデバイスのライフサイクル管理まで総合的に支援します。

生産性を向上させ、コミュニケーションの質を高め、組織のコラボレーションを加速する。そんな理想的ともいえるハイブリッドワークの環境整備ができたとしても、セキュリティ面での心配が残っていたり、管理業務の負荷が上がったりしていたら、持続可能な状態とはいえません。強固なセキュリティ体制と管理の柔軟性を両立することは、継続的にハイブリッドワークを行う上で重要なポイントとなります。

社内ネットワークを安全と考えて外部との間の守りを固める既存の対策だけでは、ハイブリッドワークでの安全は担保できません。場所を問わずに働けるということは、オフィスだけでなく自宅や外出先、サードプレイスなど

のデバイスにある情報も守らなければならないからです。

さらに、社外にある多くのデバイスを最新の状態にアップデートし、万が一の故障の際にはリモートで状況を調子見するといった管理業務も重要度が高まります。情報資産を守りながら、少ない負荷で管理できるソリューションが求められるのです。

### エンドポイントセキュリティを強化して重要情報を守る

例えば「SentinelOne」は、日々進化を続けるサイバー攻撃に自動的に対応できるAIによる自律型エンドポイントセキュリティです。「BufferZone」のようにWebアクセスをコンテナ化した領域で行うことで未然にリスク回避す

るソフトウェアも提供します。

さまざまなウイルス対策ソフトを漫然と運用しているだけでは、進化する脅威に対抗することが難しくなっています。現状のセキュリティ課題を補うためのソリューションを検討する際に、ファームウェアとアプリケーションレイヤーそれぞれのセキュリティを確保する解決策をレノボは提案しています。

### ITライフサイクル支援とクラウドを介した管理

ハイブリッドワーク化をはじめとしたDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進に当たり、IT部門に求められることは、できるだけリソースをオペレーショナルな業務からイノ



ベーションと創造、すなわち本来集中すべき事業価値の創造にシフトすることです。その検討可能な選択肢として、ITライフサイクル管理をアウトソースするというオプションがあります。

デバイスの計画段階から構成と導入、管理、最終的には廃棄にいたるまで、レノボではお客さまの貴重な人材が「事業価値の創造」にシフトできるように、エンドツーエンドの支援をサービスとして提供しています。また、保守サポートはもちろん、IT部門の手を介さずにデバイスをエンドユーザーに直送し、クラウドを介して自動的にセットアップが完了するゼロタッチデプロイメントなど、「仕組み」にまで対応領域を広げています。

働き方の多様化によってIT環境の選択肢が増えたとしても、管理工数が増えるのは誰もが避けたいでしょう。テレワークの導入によって勤務の場所や形態が広がり、従業員が分散した状況でも、デバイスの運用を可能にするため、クラウドを介した運用に注目が集まっています。

これは、働き方に合わせたデバイス

選定だけでなく、それを支えるゼロタッチデプロイメントや、その後の“場所を問わず”セキュアに業務を継続するための仕組みまでを、一気通貫で捉える考え方です。

この変化を支えるのが、レノボが提案するModern ITです。Modern ITの世界では、管理者がクラウド上の管理コンソールで設定を行うだけで、直接配布する機器に触れる必要はなくなります。

従業員も、メーカーから出荷されたデバイスを直接開梱し、スマートフォンを設定するかのようにIDやパスワードを入れるだけで自動的に設定やアプリケーションが配信され、その後の管理もMDM上で行われます。これまでは「夢物語」と思われていたことが、今日では実用可能になっているのです。

### デバイスとサービスをサブスクリプション契約で

レノボが提案するサービスの新しいかたちとして、デバイスやソフトウェア、運用管理をサブスクリプション形式で提供する取り組みがあります。これは変化の多い時代に組織の柔軟性を

高めたいお客様の要望に合わせ、短期間でIT環境の見直しが行えるといったメリットがあります。

「DaaS(ダース:Device as a Service)」は、文字通りパソコンなどのデバイスや周辺機器、また契約期間における運用管理を、サブスクリプション形式でサービスとして利用できるものです。月額制によるコストの明確化に加えて、運用期間中のデバイス管理もレノボに任せられます。テレワーク環境で働く従業員のデバイスが故障した場合にも、オンサイトでの修理対応や代替機を従業員の手に届けることで、ビジネスのダウンタイムを減らすことにつながります。

レノボは、それぞれの働き方とビジネスニーズに応じたデバイスを提供し、コミュニケーションの質を高め新しいビジネスのコラボレーションを加速させるアプリケーション、また、セキュリティから柔軟な運用管理までを総合的に支援します。お客さまのハイブリッドワーク実現に向け、ソリューションパートナーとして中長期的な変革の“伴走者”を目指すレノボに、ぜひお気軽にご相談ください。

### 「セキュリティと管理性」向上によるメリットと課題

IT担当者のうち**83%**が従来の業務の半分以上がオフィス外で行われると予測している<sup>(※7)</sup>

2022年までにIT予算のうち**23%**が従業員体験の向上に充てられる<sup>(※8)</sup>

**63%**の企業がDaaS(Device as a Service)に関心を持っている<sup>(※7)</sup>

※7: レノボ「The Future of Work and Digital Transformation」(2021年2月)

※8: レノボとIntel社の依頼によるForrester社調査「Invest in Employee Experience (EX), Drive Your Bottom Line Growth」(2020年10月)



## 短期間でPC2000 台をリプレース Autopilot の活用が決め手に

某飲料・食品メーカーでは、働き方改革の促進に向けて情報活用基盤の整備や、情報セキュリティ対策の強化を進めてきた。しかし、Windows 7のサポート切れなどの状況から、リプレースするPCの全国展開に時間がかかる。そこでレノボとともに「Windows Autopilot」を使ったセルフサービス型のPC展開手法を採用した。

コーヒー飲料や食品などを幅広く扱う飲料・食品メーカーでは、グループのCISO(最高情報セキュリティ責任者)を中心に、ITの積極活用による働き方改革を推し進めていた。まず、社内の情報共有やデータ活用促進のためのコミュニケーション基盤としてMicrosoft 365を導入。モバイルワーク環境とそれにふさわしいセキュリティ対策の導入も決めた。

この時点ですでにWindows 7のサポート期間終了が迫っていたこと、2020年7月に予定されていた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催までにリモートワーク環境をひと通り整備する必要があることなどから、厳しい時間的制限があった。

従来のPCを短期間でWindows 10搭載のPCに入れ替え、Microsoft 365や最新のセキュリティ製品を導入するには、通常のPC導入プロセスでは到底間に合いそうになかったのだ。



## 「Windows Autopilot」を用いて 大量のPCを短期間にリプレイス

同社がそうした課題の解決策を模索していたところ、マイクロソフトから「Windows Autopilot」(Autopilot)の紹介を受けた。PCをネットワークに接続してサインインすれば自動的に設定情報やアプリケーションがダウンロード・インストールできるサービスだ。これを受け、複数のベンダーにAutopilotを使ったPCリプレースの提案を依頼。何社かの大手メーカーが応じたが、レノボの提案に最も魅力を感じたという。

評価ポイントは2点。Autopilotの仕組みそのものをきちんと取り扱えることと、Autopilotを使って期限内に2000台のPCを実際に展開できることだった。比較評価したところ、レノボの提案が最も信頼度が高いと判断した。

新たに導入するWindows 10 PCとしては、LenovoのLTE内蔵で軽量、デ

## 課題

## 2000台規模のWindows 7 PCを 短期間でWindows 10 PCへと入 れ替える必要性

## ソリューション

マイクロソフトの「Windows  
Autopilot」とレノボ独自サービス  
「RTP+」を組み合わせたPC展開方  
式

## 導入効果

短期間のうちに大量のWindows 10 PCを導入して働き方改革やセキュリティ対策強化の基盤を確立

デザイン性も高い13.3型ノートPCの「ThinkPad X390」を選んだ。

2000台のPCの導入・保守  
必要な手間と時間を大幅に削減

Autopilotを使ったThinkPad X390の展開は、従来のやり方と比べるとはるかにスムーズに運んだ。ユーザー自身でほぼすべての導入作業ができ、カスタマーエンジニアがわざわざ現地に  
出向く必要がなくなったためだ。

ただし、一部の大容量アプリケーションはAutopilotを使うとネットワークに多大な負荷がかかってしまう。その対策としてレノボの「RTP+」を併用した。RTP+はレノボの工場の一部のアプリケーションも含めてPCに導入した上で出荷するサービスだ。同社は無事、従来のPCをすべてWindows 10 PCへとリプレースし、Microsoft 365や新たなセキュリティ製品の導入を実現。新たな働き方への第一歩を踏み出すことができた。

## PCをサービス形態で「利用」へ 運用管理も大幅に効率化

多店舗展開するセレクトショップの運営企業は、レノボの「DaaS(Device as a Service)」方式のサービスで業務用のPCを調達した。店舗に設置しても違和感のない高品質のデザインや、軽量で可搬性に優れるといったハードウェアの評価だけでなく、専任の担当者によるきめ細かなサポート体制と多様なサービスが評価された。

日本全国に100近い直営店を展開する衣料品セレクトショップの運営企業は、PCの運用管理に課題を抱えていた。同社は、本社オフィスで働くスタッフに対して1人1台のPCを支給するほか、店舗や物流センターにもPCを配置している。販売管理や在庫管理といった業務システムにオンラインで迅速にアクセスできる環境を整えていた。

しかし、A4ノートやデスクトップPCが主体のため設置や修理に手間がかかり、メンテナンス時にはいちいち出向かなくてはならない。今後のリモートワークなどの可能性も考慮し、可搬性の高いモバイルノートPCの導入を検討していた。

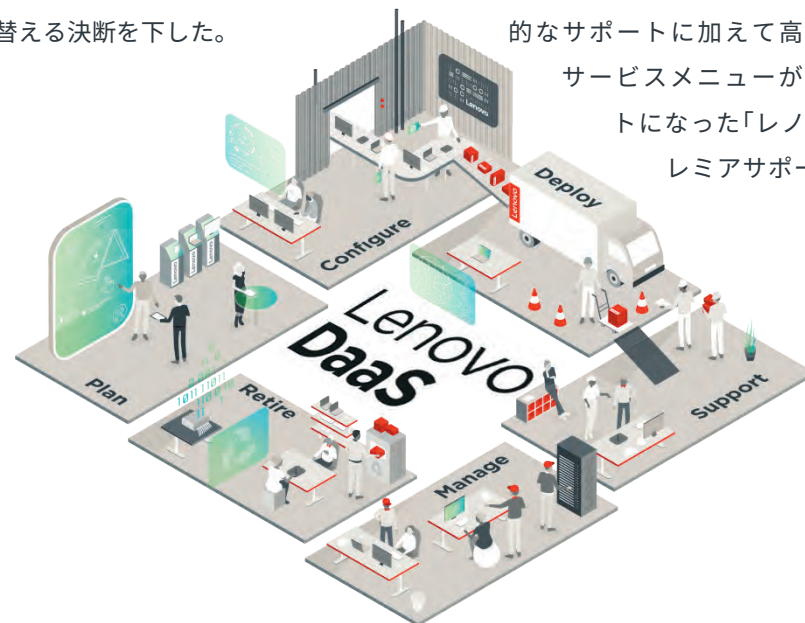
刷新が進む契機になったのはPCに搭載されているOS、Windows 7のサポート終了だった。これを機に社内のPCを全面的にモバイルノートPCに入れ替える決断を下した。

付加価値や費用対効果に優れる  
PC調達方法としてレノボに着目

刷新に当たり同社は、複数のPCベンダーやレンタル会社にPC調達の提案を依頼した。要件は「月額課金のレンタル契約かそれに準ずる契約形態」「店舗内に設置しても違和感のないデザイン性」「軽量性と可搬性」の3つである。10社近くの提案を比較検討した結果、同社はレノボの「DaaS(Device as a Service)」方式によるPCの提供およびサポートサービスを選んだ。

第一の理由は、レノボが提案したモバイルノートPC「ThinkPad X395」の優れたデザインや質感、そして軽さや頑丈さだった。さらにサポートやサービス面が非常に充実している点も評価のポイントになった。

レノボのDaaSサービスでは、一般的なサポートに加えて高度なサービスメニューがセットになった「レノボプレミアサポート」



## 課題

## Windows 7のサポート終了に伴う PCの刷新に当たり、付加価値や費 用対効果に優れるPC調達方法を 模索

## ソリューション

レノボの最新型ThinkPadを「DaaS」を通じて調達・運用する方法を採用

## 導入効果

レノボの充実したサポートサービスを  
活用することでPC運用管理の効  
率化を実現

が使える。さらに、「TAM(Technical Account Manager)」と呼ばれる専任サポート担当者によるきめ細かいサポートも魅力に感じた。PCに不具合が発生した場合に代替機を迅速に提供する「代替機運用」サービスも、導入の決め手の1つになった。

現場でも運用管理面でも  
デザインやサポートが好評

現場の従業員の間では、新たに導入したThinkPad X395のデザインや優れた可搬性の評価がとても高いという。運用管理面でも、DaaSサービスによる代替機運用で当初の期待通り迅速な対応が得られている。

TAMの存在も心強いとの評価だ。導入前の事前検証の段階から、同社の担当者からの問い合わせに丁寧に対応してくれていたためだ。今度は、問い合わせ対応だけではなく、グローバルな知見を持つレノボのTAMからのプロアクティブな提案に期待している。



## ThinkPadとMicrosoft 365を両輪に新しい働き方とBPRを加速

自社組織の変革に着手したところで、新型コロナウイルスへの対応を迫られたヘアケア・スキンケアブランドの運営企業。同社はレノボ・ジャパンとタッグを組み、「ThinkPad」の全社導入などリモートワーク環境の構築を進めた。レノボのトータルソリューションが、働き方改革と組織変革を支えている。

オーガニックコスメの製造・販売を行うヘアケア・スキンケアブランドの運営企業は、2020年の本社移転と同時に業務フローや情報システムなどを再設計するBPR(Business Process Re-engineering)による自社組織の変革に着手していた。そこにコロナ禍が襲来し、リモートワークへの対応と同時に、働き方の見直しが必要になった。

リモートワーク環境構築の起点はコロナ禍だったが、同社はこれを逆に好機と捉え、場所にとられない働き方を実現するための検討を始めた。

一方でコロナ禍前の同社はIT資産管理に関して課題を抱えていた。部署ごとにExcelで管理するような状況で、PCの機種やメーカーもそろっておらず統一化が求められていた。

### ニーズにマッチしたThinkPad Microsoft 365もレノボと契約

そこで既存業務と今後のBPRを想定

し、PCの機種選定を実施した。結果として、堅牢性や操作性、コストなどの観点からレノボの「ThinkPad」を選んだ。コミュニケーションの円滑化に向けても、レノボの提案が有効だった。テレカンファレンス用に会議専用端末の「ThinkSmart」も導入し、リモートワークが主体となったときのコミュニケーション環境を整えることにした。他社と契約していたMicrosoft 365についても、レノボに契約を一本化することにした。

### ハード性能が工数削減に効果運用管理の効率化も実現

レノボを選んだ決め手は、ハードウェアとしての優位性だけでなく、ソフトウェアも含めたトータルソリューションの力だった。その上で、ハードウェアもソフトウェアも一括でレノボに依頼したことで、コスト面でも魅力ある提案があり、導入につな

#### 課題

働き方変革推進のためにリモートワークでも円滑に業務ができる環境の実現が課題に

#### ソリューション

BPRなどへの対応に求められるPCだけでなく、ソフトウェアも含めたトータルソリューションの採用

#### 導入効果

時間効率向上や管理の容易さなど、各所で刷新された機器やシステムによるメリットを享受

がった。

ThinkPad の導入は、利用者から「動作の速さ」についての評価が高い。肌感覚としてこれまでより5～10%程度の効率アップにつながっている。全社で月1000時間程度の工数削減が可能との試算もあるほど。リモート会議用として導入したThinkSmartも、簡単な操作で誰でも使えると好評だ。

Microsoft 365のライセンス契約を切り替えたことの効果も実感している。従来はライセンスを追加するのに約1週間かかったが、10分足らずでライセンスを追加できるようになったという。

IT資産の一括管理面でも、レノボを通してモバイルデバイスの管理を行うMicrosoft Intuneを導入し、PCを含めた機器の一括管理が可能になった。

同社は、今後もレノボの総合力により、デジタル化による効率化、セキュリティの高度化、AI活用など次世代技術の活用を推進していく考えだ。



## エンドポイントを徹底して保護 運営負担軽減も同時に実現

顧客の個人情報の取り扱いが必須のある食材宅配サービス企業では、個人情報にまつわる既存のセキュリティ対策の継続に懸念が生じていた。機能面と運用負荷の両面で代替製品を探したところ、レノボから自律型エンドポイントセキュリティ製品「SentinelOne」の提案を受けて採用を決めた。

コロナ禍の巣ごもり需要で業績が伸長していた家庭向けの食材宅配サービス企業では、個人情報を扱う業務の性質上から不可欠だったセキュリティ対策に懸念が生じていた。

これまでも企業システムやネットワークは専門業者の手でセキュリティ対策を施し、社員が使うPCもリテラシー教育とアンチウイルス製品の導入など技術的な対策の両輪で進めてきた。しかし、アンチウイルス製品の開発ベンダー側の体制変更に伴い、ライセンス費用が割高になるとともに、定義ファイルの更新頻度が落ちた。さらに定期的なセキュリティチェック中にPCの動作が遅くなる事例も多発していた。

こうした経緯から、ライセンス更新のタイミングに合わせてセキュリティソフトウェアの変更を決めた。

同社は新たなエンドポイント対策について情報収集を開始した。そんな中、これまでPCなどのハードウェアの

調達でサポートを受けてきたレノボから、自律型エンドポイントセキュリティ製品「SentinelOne」の提案を受けた。

### 運用負荷がかからないSentinelOne レノボの迅速なレスポンスも高評価

提案を受けた同社は、従来型のパターンファイルで検知するセキュリティ機能だけでなく、PCなどの不審な挙動を検知して迅速に対応できるEDR(Endpoint Detection and Response)機能の必要性を感じ取ったのだ。

SentinelOne導入の最有力の決め手になったのは、運用負荷の軽減だった。クラウド管理型のSentinelOneは運用負荷が少なく、人的リソースが不足している同社の運用体制にマッチしていると感じた。また、他社製品と比較検討する中で、素早いレスポンスやフィードバックがあったレノボの対応から信頼感も得ていた。



#### 自律型 エンドポイント保護

従来型アンチウイルスソリューションからAIパワード・エンドポイントプロテクションへ



#### 自己修復型 ActiveEDR

スタティックAIとふるまい検知AIを融合したエンジンがすべてのプロセスを監視および分析



#### 容易な オペレーション

EPPとEDR機能を1エージェントに統合し、日本語にも対応したコンソールで簡単に運用



#### 製品との統合

豊富なカスタム可能なAPIで60を超えるサイバーセキュリティ製品やIT運用テクノロジー製品を統合可能

#### 課題

既存のアンチウイルスソフトの継続利用に懸念が生じていたことから、新たなエンドポイント保護の選択肢を模索

#### ソリューション

レノボが提案した自律型エンドポイントセキュリティ製品「SentinelOne」で、機能面と運用面の課題解決に光明

#### 導入効果

既存アンチウイルスソフトで見逃していた脅威を検知するとともに、管理者の運用負荷も軽減

### 優れた検知能力を発揮

### クラウドによる管理上のメリットも

こうして同社は2021年4月にSentinelOneを導入し、レノボが提供する「SentinelOne保守支援プログラム」を活用して運用を開始した。

導入効果は明らかで、SentinelOneをインストール後、即座にスキャンが始まり、約3分後にはセキュリティチェックが完了した。その早さと、既存のアンチウイルスソフトウェアでは見つけられなかった脅威を検知できたことで、効果を体感した。

運用負荷でも効果が表れた。クラウド管理型のSentinelOne導入により、アラートが上がっても以前のようにオフィスに出向いて確認する必要はなく、自分のPCから確認できるためだ。

SentinelOneの導入により、懸念があったセキュリティ対策の機能面だけでなく、運用負荷軽減による働き方の改革に向けた成果も上げられた。



## 生産性を高める：Productivity

多様な働き方を実現し、組織の生産性を高めるためには、従業員の働き方と業務目的に合わせたIT環境の整備が必要です。レノボは幅広いデバイスのラインアップとクラウド型の業務アプリケーションの提供を通して、生産性を高める環境づくりを支援します。

## Device of Choice — それぞれの働き方に、最適な環境を

ハイブリッドワークでは、オフィスなどの事業所の勤務環境を整える延長線上で、従業員の自宅やサードプレイスなどでの勤務でも最適なIT環境を提供する取り組みが企業や組織に求められます。レノボは、そうした環境整備における「選択肢」の幅の提供をサポートします。



ThinkPad X1 Carbon Gen 9

伝統と革新性、信頼性を兼ね備えたThinkPadシリーズがお客様の成功を生産性向上でサポートする、幅広いラインアップ。



デバイス



VDI環境導入

仮想デスクトップ・インフラストラクチャー(VDI)活用をハードウェア、サービスの双方からVDIエキスパートが支援。

## クラウド親和性の高いアプリケーション

Microsoft Teamsを中心に、Officeアプリやセキュリティをクラウドを介しまとめて提供する業務の要となるソフトウェアのサブスクリプションサービスです。



マイクロソフト 365



ソフトウェア

## マイクロソフト チームズ

ハイブリッドワークのインフラとして、会議、チャット、通話、共同作業をまとめて提供。

## コラボレーションを加速する：Collaboration

隣に居なくても、温度感のあるコミュニケーションを。時間や場所にとらわれない、新しいコラボレーションを。リモートでも「つながり」を維持し、チームの一体感を高めるソリューションの提供を通して、お客様のビジネスの挑戦を応援します。

## リモートでのコラボレーション

自宅やサードプレイスでの勤務で生産性を発揮するには、ノイズキャンセリング機能を持つヘッドセットやDolby Voiceをはじめとするソフトウェアの力でノイズを低減する仕組みが提供されているノートPCなど、個人の勤務環境に合わせた機能の拡充が必要になります。小規模な会議スペースやホームオフィスでの会議に最適なLenovo ワイヤレス VoIP スピーカーフォンは、360°に配置した4つの全指向性マイクによるクリアな音質でシームレスなコラボレーション体験を提供します。

ThinkPad X1  
アクティブノイズ  
キャンセレーションLenovo ワイヤレス VoIP  
スピーカーフォン

デバイス

## オフィスからのコラボレーション

オンライン会議に特化したThinkSmartシリーズを中心に、オフィスからのコラボレーションを安全で快適に実現する会議室向け専用デバイスをラインアップしています。



ThinkSmart Hub



ThinkSmart Core

デバイス



## ディスカバリーズ

ディスカバリーズの豊富な実績が製品化された3つのクラウドサービスは、組織のコミュニケーションやコラボレーションを再設計しやすく、従業員のデジタル体験を向上させる効果があるため、組織や企業の変革やDXの推進に有効です。



## インサイト

組織内のストック情報を一元管理・整理し、必要な情報がすぐ見つかる社内サイトが構築可能。

ソフトウェア



## エンゲージワークス

自分に必要な社内情報がストーリーで分かり、自ら発信もしやすく、テレワークでも組織の一体感を失わない。

ソフトウェア



## インテリレポート

部下やチームのコラボレーションを自動的に可視化し、ミドルマネジメントの管理業務をサポート。

ソフトウェア

## 運用管理の柔軟性を上げる：Management

在宅勤務などのテレワーク、従来型のオフィスでの勤務、サテライトなどコワーキングスペースでの勤務などが併存するハイブリッドワークを継続するには、リモート下でのデバイスの柔軟な管理やセキュリティ対策が不可欠です。さらにワークプレイスが分散した状況下でも、デバイスの導入から破棄にまでわたる一貫したライフサイクルマネジメントの重要性は増すばかりです。レノボは、持続可能なハイブリッドワークの実現を支える、セキュリティと柔軟性、運用負荷を両立するこれらのデバイス運用のあり方をご提案します。



## エンドポイントを強化するセキュリティ

場所や時間を問わない働き方が普及する一方、PCを持ち運ぶが故に高まるセキュリティリスク対策の重要性も強まるばかりです。特に情報漏洩対策、すなわちデータ保護の観点では、エンドポイントセキュリティ対策の“自律性”の確保が重要です。

ソフトウェア



## センチネルワン

進化し続けるサイバー攻撃に対して、AIによる自律型サイバーセキュリティでエンドポイントを守る。

ソフトウェア



## バッファゾーン

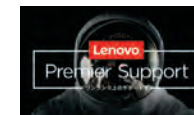
Webアクセスをデバイス上の仮想コンテナ経由にして脅威をコンテナ内に封じ込める。



## ITライフサイクル支援をアウトソース

IT部門は適切なアウトソースの活用により、業務の負荷軽減につながります。導入計画から構成、導入、サポート、管理、廃棄までデバイスライフサイクルのすべてにわたるレノボの保守・サポートが、IT部門の生産性向上を支援します。

サポート



## レノボプレミアサポート

プレミアサポートエージェントがハードウェアやソフトウェアのトラブルシューティングに365日24時間対応。

サポート



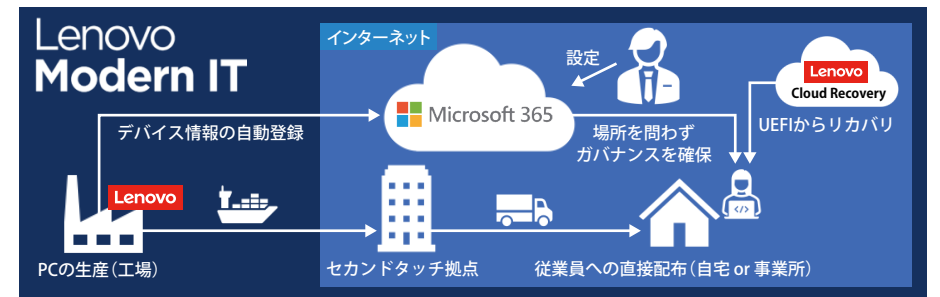
## レノボライフサイクルサポート

安心して製品をご利用いただけるよう、導入からリサイクルまでのライフサイクルマネジメントを一貫してサポート。



## 場所を問わない管理をModern ITで実現

クラウドを介したデプロイメントにより、管理者は配布する機器に触れることなく従業員への展開が可能です。従業員は、届いたPCを開梱してAzure ADの認証情報でサインインするだけで、一人ひとりに合わせた業務環境が用意されます。



## デバイスや運用管理をサービス契約で

ハイブリッドワークでは変化する勤務形態やチーム体制に合わせ、従業員に提供するIT環境も柔軟に整備する必要があります。Lenovo Device as a Service(DaaS)やLenovo Cloud Solution Provider(CSP)を利用することで、使用しているデバイスからソフトウェアのライセンス、運用管理まで、サブスクリプション形式で状況に合わせて変動させることが可能になります。

サービス

DaaS  
デバイス アズ ア サービス

PCやタブレットなどのハードウェアから外付けディスプレイやマウスなどの周辺機器、ソフトウェア、セキュリティ、管理運用サービスまで、まとめて月額サービスとして提供。



サービス

Lenovo CSP  
(Cloud Solution Provider)

Lenovoの管理する専用プラットフォームから、Microsoft 365などのソフトウェアを会員価格で提供。専任担当者が導入をサポートし、アカウント管理も簡単。契約ライセンス数をユーザー数の増減に応じて変更できるなど柔軟性の高さが特徴。

デバイス



## インテル® vPro® プラットフォーム

ハイブリッドワークをはじめとしたあらゆるビジネスニーズに応える、モバイルビジネスに不可欠な性能とハードウェアセキュリティを実現するインテルのプラットフォームです。



一人ひとりの働き方に最適な環境を

“One Fits All”が機能しないハイブリッドワーク化する世界で、最高の生産性を発揮するために



**ホームワーカー  
フリーアドレスワーカー**  
在宅勤務やオフィス内の移動を中心とした働き方



**ハイブリッドテレワーカー**  
日々最適な場所を能動的に 選びながら柔軟に勤務



**インターナルワーカー**  
事業所の固定席での利用がメイン

ThinkPad X1 EXTREME



ThinkPad X1 FOLD



ThinkPad X1 NANO



ThinkPad X1 TITANIUM



ThinkPad X1 YOGA



ThinkPad X1 CARBON



ThinkCentre



ThinkPad T14s



ThinkPad X13 / X13 Yoga



ThinkPad T15



ThinkPad T14



ThinkPad X12 Detachable



ThinkPad L13 / L13 Yoga



ThinkPad L15



ThinkPad L14



テレワーク



モバイルモニター



超小型 ACアダプター



トラベルハブ



ヘッドセット  
スピーカーフォン



プライバシー  
フィルター



事業所・ホームオフィス



USB Type-C  
対応モニター



ドッキング  
ステーション



外付け  
キーボード



マウス



オンライン会議  
専用ソリューション



エッジからクラウドまでのよりスマートなインフラストラクチャー

よりスマートなインフラストラクチャーで、データ・インサイトを迅速に獲得

ThinkAgile

ソフトウェア定義インフラストラクチャー

認定ノード

ThinkAgile HX

ThinkAgile VX

ThinkAgile MX

ThinkSystem エンタープライズ インフラストラクチャーとエンジニアリング ソリューション

人工知能

ビッグデータと分析

データベース

Cloud

HPC

バックアップとリカバリ

仮想化

IoT/エッジ

ブロックチェーン

HPC



エッジサーバー



ストレージ



サーバー







ハイパースケール



高い信頼性、高性能、高いセキュリティ のインフラソリューションを提供

XClarity プラットフォーム管理 / サービス: ソリューション設計、実装、サポート、TruScaleサービス (従量課金サービス)